

「港湾を兵站基地にするな！」 「港湾労働者と戦争を考える」

「平和といのちと人権を！ 憲法大集会」

5月3日、夏日を思わず晴天のなか、憲法施行から77年を迎えた憲法記念日、有明防災公園（東京臨海広域防災公園）に於いて「平和といのちと人権を！5・3憲法大集会」（参加者3万2000人）が開催され、全国港湾として各単組・地区港湾の仲間の協力のもと40人規模を以て参加した。

この大集会では各政党や関係する団体の代表者が多数駆けつけスピーチが行われ、有明防災公園（東京臨海広域防災公園）に於いて「平和といのちと人権を！5・3憲法大集会」（参加者3万2000人）が開催され、全国港湾として各単組・地区港湾の仲間の協力のもと40人規模を以て参加した。

代表者によるスピーチをきくなかで「では平和外交とはなんぞや」「具体的な平和外交とは」というテーマにたつてスピーチをしてくださった代表者がいた。浅学非才の私からすれば一言「ほんまやあ」と思った。「武力行使ではなく平和外交こそ」と声高々に訴えたとしても真の平和外交とはなにかときかれたら「わかりまへん」となってしまう。まあこれは私だけの話ではあるのだが。

この代表者は具体的且つ様々な視点にたつてスピーチをされていたが、きいていた私が感じたのは、先ずは自ら足を運び相手の文化を学び知り、相手の感情や情念つまり人を知るなかで敬意の念を抱くことで、相手も我々に対し友情を抱いてくれるのだなあと改めて痛感した瞬間であった。

このことは、平和憲法を堅持するこの日本に課された使命なのではないのかと確信した。今、岸田政権は平和憲法を蹂躪し戦争ができる国家へと着々と駒を進め、とうとう殺人兵器の共同製造・輸出にまで手をを出してしまつた。

全国港湾は我々港湾労働者の命と平和な暮らしを守る立場から、此度の「大集会」をとおして「港湾を兵站基地にするな！」の組織理念の基、更なる団結が求められると思つた一日であった。来年は動員1000人をめざそう！

（全国港湾委員長代行・日港労連委員長 竹内 二）



ここには、全国港湾の組織理念と3万2000人からなる参加者全員の信念は、プラカードに示すように「武力で平和はつくれない」「とりもどそう憲法生かす政治」であり憲法九条を生かした平和外交が今こそ求められているということに尽きるのである。

続いて、各政党や団体の代表者によるスピーチをきくなかで「では平和外交とはなんぞや」「具体的な平和外交とは」というテーマにたつてスピーチをしてくださった代表者がいた。浅学非才の私からすれば一言「ほんまやあ」と思った。「武力行使ではなく平和外交こそ」と声高々に訴えたとしても真の平和外交とはなにかときかれたら「わかりまへん」となってしまう。まあこれは私だけの話ではあるのだが。

この代表者は具体的且つ様々な視点にたつてスピーチをされていたが、きいていた私が感じたのは、先ずは自ら足を運び相手の文化を学び知り、相手の感情や情念つまり人を知るなかで敬意の念を抱くことで、相手も我々に対し友情を抱いてくれるのだなあと改めて痛感した瞬間であった。

このことは、平和憲法を堅持するこの日本に課された使命なのではないのかと確信した。今、岸田政権は平和憲法を蹂躪し戦争ができる国家へと着々と駒を進め、とうとう殺人兵器の共同製造・輸出にまで手をを出してしまつた。

全国港湾は我々港湾労働者の命と平和な暮らしを守る立場から、此度の「大集会」をとおして「港湾を兵站基地にするな！」の組織理念の基、更なる団結が求められると思つた一日であった。来年は動員1000人をめざそう！

（全国港湾委員長代行・日港労連委員長 竹内 二）

リレー随筆

「船の守人」

今回のリレー随筆は、私藤木の番です。

今回は、「船員」の仕事 私は、職業として船員を



したことがないので正確に欠ける点もあるかとは思いますが、ご容赦を願います。

また、船内では船長、チーフ・オフィサー、機関長、セカンド・エンジンなどのように階級に分かれていてそれぞれの仕事と命令系統が、はっきりしています。これは安全航行を行う上でも重要なことで、ましてや緊急時には船長の号令によって動くことになっていきます。

以前に読んだなかの機関紙に東日本大震災の時に東北のほうに停泊していた

私は以前、沖に停泊している船に3日間いたことがあります。寝た場所は、お

客さん用の部屋でした。しかし、夜寝るときには、エンジンの振動と音が気になってよく寝れませんでした。これが荒れた海の航行だったら、と考えるだけでゾッとしました。

一方、世界にはいろいろな船会社があり資金的に搾取されやすいという環境にまだまだあると思います。この紙面では書ききれませんが、特に日本では船の輸

こくみん共済coop

全国労働者共済生活協同組合連合会

港湾産別協定⑤③ 港湾の保安対策

1912年に米英間に就航する大型客船タイタニック号が沈没し、乗員乗客1500人が犠牲になったという大惨事が起こりました。直接的原因は漂流する氷山との衝突ですが、氷山接近の警告が見過ごされたことと救命ボートの不足によって被害は拡大したとも言われています。映画にもなり、オーケストラの団員が沈没寸前まで音楽を奏で、逃げ惑う乗客や救助に奔走する多くの船員を励ましたという逸話もあります。

この惨事を契機に、船舶・船員・乗員の安全確保のための救命艇の具備、無線の装備などの規制を定める条約として1914年にSOLAS条約が誕生しました。しかし、この条約は同年に勃発した第一次世界大戦に

より発行に至らず、その後、安全規制の追加や修正が行われ1933年に第11章港湾の保安対策第55条 改正SOLAS条約への対応 改正SOLAS条約（海上における人命の安全のための国際条約）に伴う「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」に基づく港湾保安対策の実施・運用に当たっては、港湾労働者の人権及び労働基本権の侵害をしてはならない。

現在在事業責任者になっていきます。港湾の出入りが厳しくなったことで、市民が岸壁で釣糸を垂れたりという風景は古のものと感じます。

この法律ができて、今度は警備の業務が生まれました。この業務を巡って、組合は「港湾関係者の仕事」として確保すべきと要求して、協定化しました。それが次に紹介する第56条です。

第56条 警備業務 第55条の法律の施行により規定される警備業務は、原則として港湾関係事業者の業域であり、港湾関係労働者の職域である。

当初、この業務は専門性が求められるので警備会社等がやるのではないかと議論がありましたが、日港協の「独禁法抵触」、不当労働行為に事件の現状も報告します。

より発行に至らず、その後、安全規制の追加や修正が行われ1933年に第11章港湾の保安対策第55条 改正SOLAS条約への対応 改正SOLAS条約（海上における人命の安全のための国際条約）に伴う「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」に基づく港湾保安対策の実施・運用に当たっては、港湾労働者の人権及び労働基本権の侵害をしてはならない。

現在在事業責任者になっていきます。港湾の出入りが厳しくなったことで、市民が岸壁で釣糸を垂れたりという風景は古のものと感じます。

この法律ができて、今度は警備の業務が生まれました。この業務を巡って、組合は「港湾関係者の仕事」として確保すべきと要求して、協定化しました。それが次に紹介する第56条です。

第56条 警備業務 第55条の法律の施行により規定される警備業務は、原則として港湾関係事業者の業域であり、港湾関係労働者の職域である。